

マイナー・サブシステムと 琉球の特殊動物

ジュゴンとウミガメ

Minor Subsistence and Particular Animals in Ryukyu

松井 健

はじめに

①マイナー・サブシステムの定義

②ジュゴン

③ウミガメ

おわりに

【論文要旨】

著者は、まずマイナー・サブシステム (minor subsistence) を、以下のように定義した。①経済的意味は必ずしも大きくないが、ないわけではない。②地域社会のすべての人たちがやるわけではないが、当のマイナー・サブシステムの上手な人たちは、その共同体のなかで、一種の社会的威信をえることができる。③マイナー・サブシステムは、労働としてはけっこうきつく、かつ、通常の活動域の外、自然の奥へ入っておこなわれることが多い。④時間的・空間的に限定されたところでおこなわれている。これは、マイナー・サブシステムの対象の生物の生活史のためである。このため、マイナー・サブシステムの経済的意味は大きくなりえない。また、同時にこのために、人びとの生活のなかで、マイナー・サブシステムは彼らの一年周期でめぐる生活の暦をはっきりと意識させることになる。⑤道具や方法については技術的にはそれほど高度なものではないために、かえって、マイナー・サブシステムをおこなう人の技法上の習熟が必要であり、これが、この活動のおもしろさや奥深さに関係する。

琉球諸島において、このようなマイナー・サブシステム的な諸活動の対象となっている動物の多くは、島民の日常生活のなかで、かなり特殊な扱いをうけており、彼らの周囲の生物的・自然的なかでも特別な位置を占めるものとみなされている。とくに、口承伝承において、通常考えられないような役割を担っている。これらの動物の特殊性については、すでに Mary Douglas や Eugene Hunn らによる分析があるが、ここでは、島人のマイナー・サブシステムという活動とのかかわりから、特定の動物が特殊なものとして位置づけられるプロセスを解析してみたいと考えている。本報告は、まず、ジュゴンとウミガメを扱う。これは、『おもしろさうし』のなかで、両者が一対のものとして唱えられている理由によるもので、それ以上の意味はなく、今後おこなわれる一連の報告の第一報である。